

会議録（１）

会議の名称	令和４年度 第３回飯能市地域福祉審議会及び飯能市地域福祉活動計画推進委員会	
開催日時	令和５年２月１４日（火） 開会 午後６時２７分 閉会 午後８時３２分	
開催場所	飯能市総合福祉センター ３階 大会議室	
議長氏名	菱沼 幹男	
出席委員	菱沼 幹男 本橋 千恵美 岡野 民嗣 角田 健一 綿貫 まなみ 清野 剛義 有賀 りつ子 都築 公子 大野 泰規 大野 康 三上 雅子 森井 健一 橋本 誠一 佐藤 隆則	
欠席委員	杉田 和美	
説明者の職氏名	地域・生活福祉課主幹 森田 宜洋 地域・生活福祉課主事 馬場 俊一 飯能市社会福祉協議会主幹 高橋 克巳 飯能市社会福祉協議会主幹 本村 洋 飯能市社会福祉協議会主幹 野田 剛 飯能市社会福祉協議会主査 宮澤 敬行	
傍聴者の数	なし	
会議次第	別紙のとおり	
配布資料	別紙のとおり	
事務局職員職氏名	地域・生活福祉課長 竹井 伸次 地域・生活福祉課主幹 森田 宜洋 地域・生活福祉課主事 馬場 俊一 飯能市社会福祉協議会事務局長 双木 和宏 飯能市社会福祉協議会主幹 高橋 克巳 飯能市社会福祉協議会主幹 本村 洋 飯能市社会福祉協議会主幹 野田 剛 飯能市社会福祉協議会主査 宮澤 敬行 飯能市社会福祉協議会主任 飯田 恵美 飯能市社会福祉協議会主任 黒澤 太輔 飯能市社会福祉協議会主任 梅木 裕也 飯能市社会福祉協議会主任 渡辺 知子	

会議録（２）

議事録の概要〈経過〉・決定事項

議事

（１）アンケート調査結果について

配布資料について、事務局が説明し、グループワーク内で議論された。

（２）第４次はんのうふくしの森プランで取り組むべき施策について（グループワーク）

グループワークについて、事務局が導入説明し、実施された。各グループの発表を行い、議長による講評が行われた。

会議録（3）

発言者	発言内容
議長	<p>それでは、議事に入ります。</p> <p>「(1) アンケート調査結果について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p>
地域・生活福祉課主事	<p>(資料1『飯能市の地域福祉に関するアンケート調査結果報告書(案)』、資料1補足資料『アンケート調査結果についての考察』を説明)</p>
議長	<p>膨大な内容なので、持ち帰っていただいて、関係する方と共有してほしいと思います。</p> <p>これらの調査結果について、皆様からご意見をいただきたいところですが、このあとグループワークが控えているので、ご意見や聞きたいことなどありましたらグループワークの中であわせて行っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
議長	<p>それでは、このまま次の議事に入ります。</p> <p>「(2) 第4次はんのうふくしの森プランで取り組むべき施策について(グループワーク)」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p>
社会福祉協議会主任	<p>(資料2『評価指標レーダーチャート』、資料3『グループワーク説明資料』を説明)</p>
議長	<p>それでは具体的な進行は事務局をお願いします。</p> <p>(グループワーク実施)</p> <p>1 グループ：本橋委員、岡野委員、大野(泰)委員、鈴木委員 2 グループ：角田委員、綿貫委員、佐藤委員 3 グループ：清野委員、大野(康)委員、三上委員 4 グループ：有賀委員、都築委員、森井委員(、杉田委員)</p>
地域・生活福祉課主幹	<p>グループワークの終了時刻となりました。皆様お疲れさまでした。それではこれから各グループの発表となります。それぞれの模造紙を</p>

ホワイトボードに張っていただき、発表するグループの周りにお集まりください。

準備ができている4グループからお願いします。

社会福祉協議会
主幹

まず、アンケートの結果を踏まえて自分の地域を振り返ろうと言うことで話がありました。やはり組織の後継者が不足しているということで、進めていく上ではリーダーシップが必要だということ。また、リーダーシップを高めていくことによってコミュニケーション力が上がって、相談ができる体制ができるようになれば良いのではという意見がありました。

情報の発信ということでは、利用者の目線からの情報の発信が大事だということで、例えば食堂、レストランをやっていますということだけだと通り一辺になります。実際に行ってみると色々な人が利用できるレストランだったりするので、そうした情報発信を適切に行っていけば、様々な方が交流できる場になるのではないかという意見がありました。

また、それに付随して、移動がしやすい地域づくりということで、障害者の移動が難しいという話があり、ちょっとしたものでも良いので、市でタクシー券の補助があれば良いという意見がありました。

担い手というところでは、いずれの分野でも担い手は不足していますが、育成することも大事ですが、資格を所持している人も結構多いのではないかということで、そういった人を掘り起こすことも必要だという意見がありました。

また、相談員も心身ともに疲弊してしまうので、支援する相談員をスーパーバイズする人の育成も必要だという意見もいただきました。

簡単ではありますが、4グループは以上です。

地域・生活福祉
課主幹

次に準備ができているところで、3グループの発表をお願いします。

社会福祉協議会
主幹

特に話が盛り上がったのはICTの活用で、最低限の使い方だけでも、全世代、全世帯で勉強する必要があるのではないかということです。コロナで保健所への登録ができなかった高齢者等もいたということからも、こういった時代でもあるので、ICTによってお互いに知り合う・分かり合うこともできるし、それにあわせて多様性の理解やSDGsも盛り込めていけたら良いという意見がありました。

支え合いのところは、担い手づくりが専門職、住民、地域の組織

の拡充が必要だということと、地域の担い手の世代交代については、若い世代を取り込む中で、若い人と今まで活動してきた人とを比べると考え方の違いがあり、お互いに理解し合っていくことが必要だという意見がありました。

また、支援する人が支援される側にもなりうるということ。支援をしている人が支援されている人から学ぶこともあるし、お互いに学んでいくことも広めていくことが必要だという話がありました。

交わるというところでは、子どもの居場所等が挙げられましたが、空き家の活用については、空き家バンクは現状住む人に対する施策ですが、空き家を地域の資源と考えたときに、この地域にこんな活動場所がありますよという広報をしていただけると、活動の拠点にすることもできるのではという意見がありました。

また、他市から子どもたちが月1回来て支援しているような高齢者の方と地域の方がゆるやかなつながりを持っていることで専門職につながっていく形にできるかなという意見もありました。

子どもの居場所は、子ども食堂などもコロナでなかなか復活できなかつたりしていますが、大切という話がありました。

安心して暮らせる仕組みづくりとして、防災訓練を自治会の役員でやったりしていますが、地域包括支援センターなどの事業者も防災訓練に参加できたら良いという意見がありました。

避難行動要支援者リストが広まってきていますが、もう少し実のあるものになれば良いという意見がありました。避難についても、これからは分散避難や家の中での避難なども考えた方が良いという意見も出ていました。

地域・生活福祉
課主幹

次に1グループの発表をお願いします。

地域・生活福祉
課主事

そもそものところから、今回のグループワークは各論であり、近年の社会情勢や政策動向などの総論を抑えたうえで個々の対応をしていく必要があるという意見が大前提にありました。

ふくしの森プランの認知度が中々上がらないという点では、本当に認知度を上げたいのかという厳しい意見もいただきました。どうして進まないのかを考えると、ゴールをいつまでに何をするのか明確化させていくことが次のステップにつながるので、そういった設定をしっかりとした方が良いという意見をいただきました。

このグループでは居場所に関する意見が多く出ました。地域の居場所自体はレーダーチャート資料を見る限りは充足しているよ

うに見受けられますが、実際には歩いて行けるところに地域の居場所があることが大事なので、自治会館の活用を進めることや、行きやすさも大事なので、簡単な趣味的なサロンや歌を歌ったりなど、誰でもできるような活動のサロンを開くことによって行きやすい居場所が生まれるのではないかという意見がありました。

居場所の重要性の一つとして、人と人がつながる場所であることが大事です。つながりがあることで、ご近所のつながりやお互いのことがわかる間柄になることとなります。

支え合いの中では、相談窓口がわからないという意見もアンケートであり、現場の声でも多いとのこと。例えば総合相談窓口があれば、そこにまず相談してつないでいったりとかできるのではないかという意見がありました。民生委員・児童委員も総合相談を受けていますが、抱え込んでしまって一杯一杯になることもあるとのこと。支援者が話を聞くけど、そのまま進捗できずに抱え込んでしまう現状があるため、民生委員・児童委員を助ける意味では、ご近所さん同士が静かな見守りをするることによって、少しでも手助けになり、それが次代の担い手にもなるのではないかとの意見がありました。

支援者が抱えてしまうのは複雑な問題であるため、具体的には8050の問題やひきこもりの問題などが挙げられました。今顕在化している問題もあれば、10年、20年後に親が亡くなって年金収入がなくなってしまう方など、これから問題になるケースも潜在的にたくさんあるのではないかとのことで、そういったところに対応していくかということが挙げられました。

安心して暮らせる仕組みづくりでは、ネットの活用についての意見も上げられました。学校ではオンラインの授業などへの活用も進められていますが、高齢者はネットを使えない方も多いため、そういった方への対応をどうするかが問題として挙げられました。

その他、福祉圏域は13あるものの、民生委員さんの圏域は12圏域でバラバラになっているので、そこの整理も必要だという意見もありました。

地域・生活福祉
課主幹

最後に2グループの発表をお願いします。

社会福祉協議会
主幹

用意された4分割の模造紙にあまりこだわらずに議論をしました。

移動の部分についての話がかなり盛り上がりました。特に、これまでの第1次プランから第3次プランまでは高齢になってどうや

って出かけるのかという話題が中心でしたが、ファミサポも、現在は自家用車の利用が禁止になって、保育園の送迎で使えないということで、飯能市に移り住んで生活されている若いお母さん達が地域で仕事しながら生活していくことを考えると、大きな課題になっています。

公共交通機関が減っている中、障害がある人も通院や就労、社会参加をしていく手段が難しくなっているという指摘もありました。そのような中、地域の中でボランティアによる付き添いの支援も行われているけれど、保険の負担であったり、ボランティア自身が大きな負担を抱えながらやっている部分もあり、有償ボランティアも中々難しいという意見でした。

それゆえに担い手を増やしていくというところでは、ボランティアの意識を高めていくしかないのではという意見もありましたが、義務感だと広がりには難しいので、楽しみをどう付加させていくか。地域の活動に参加して初めて顔の見える関係ができて、地域で生活している意識が芽生えたということで、加治東地区で現在、子どもの遊び場づくりを通して地域活動に参加する輪が広がっている事例も紹介されました。

中高生の居場所づくりに着目すると、安心できる居場所がないと回答している子どもたちが4.6%もいることに驚きがあったとのこと。20人に1人が家庭にも学校にも居場所がない子どもたちがそれだけいるということです。中高生の居場所づくりに着目していく必要があります。公共施設だと禁止事項が多く自由に使うことができないので、そういう場所づくりも大事だし、SNSを居場所と感じている子どもが多いことに危機感も感じるということです。子どもたちが自由に過ごせる場がなくて、特に経済的に余裕がない子どもたちの居場所がないのではないのかという指摘がありました。

その他にも、産前産後のケアが薄くて、若い世代の人たちは両親が近くに居ないと、例えば出産の際に兄弟児を預ける場がなかったり、最近では、精神疾患を抱えているお母さんもいる中で、産前産後のケアを充実することが必要だという意見もありました。第1次プランから第3次プランまでは高齢者、障害者、子どもと色分けしてきましたが、その狭間にある課題も出てきているという印象を受けました。

また、この審議会の場合に来て初めて色々な課題や活動があることを知ることができたとの意見がありました。最近はどうしても社会全体が電話とかメールで済ませて対面の機会が減ってきています。これからもお互いを知り合う機会が減っていくのではないのかという意見をいただきました。

同様に、精神疾患のある人への理解で、地域の人の中には、精神疾患のある人は怖いというイメージを持っている方もいるようですが、実際はそうではありません。理解が進んでいくためにも、人と人が関わり合う機会をどう作っていくかが、このグループでの全体的なテーマとなっているように感じました。

地域・生活福祉
課主幹

ありがとうございました。それでは委員の皆様は席にお戻りください。

議長

皆様お疲れさまでした。私の方から講評をお話しさせていただきます。

地域活動を類型化すると、4つの段階に整理できます。まず、①見守り・声かけの活動があり、次に②居場所とかサロンとか交流の活動があつて、③生活支援があつて、④調査・学習の段階ということで4つの段階があります。

今回の調査の結果や皆様の意見から、交流や居場所の大切さが出ていました。その際に、従来の居場所の考え方で良いのだろうかという視点です。従来の居場所から落ちていた人たち。精神障害者の理解ということもありましたが、コミュニケーションの難しい人や外出が困難な人は居場所に行けなかったり、漏れていた人が誰なのか、また、色々な人の生きづらさを学んでいく、そしてそれを受け止めていくマッチングということで、居場所を作れば良いということではなく、学習と交流の大切さというところから考えてみたり、あるいは居場所に来られない人にはこちらから出向いたり、声かけ、訪問活動の大切さもあります。「声かけ・見守り」と「交流」はどちらも大切なこととしてあります。

「学習」と「交流」の重要性は何をきっかけにするか。防災が大切な切り口になるのではないのでしょうか。今回の調査結果でも63ページ、64ページで防災訓練の参加状況が地域によってかなり違ってきます。

防災訓練に高齢者や障害者が参加できているだろうか。役員さんだけでやっている防災訓練で良いのかという視点も大事です。既存の地域活動の中でいかに学習と交流の機会をもたせていけるかが大事になってきます。

担い手についても課題になっていますが、担い手の掘り起こしについては、何の担い手が必要かという整理が必要です。活動者の実態もそうですし、暮らしている方のニーズ把握や実態把握が必要になります。今回の調査で見えているものがありますが、改めてその地域の生活実態がどうなのか。外出の状況もありましたが、山間地域ではどこの医療機関にどのくらいの頻度でどういう方法で

通院しているか、何時頃かという実態を見ることによって、どうい
うことができるか。乗合タクシーを使う、送迎を出す、通院時間を
合わせるなど、実態をつかむことによって対策を考えることができ
るようになるので、担い手の掘り起こしということでは、住民の
意識を変えようではなくて、実態を把握しながら対応を考えられ
れば良いでしょう。調査・学習は大切なので、エリアエリアのそう
いった実態を把握していくことができれば良いなと思っています。

ICTということでは、デジタル弱者の人が出てきているので、
そういう人たちを支援するための実態の把握もありますし、孤独
や孤立を感じているか、寂しいと感じているかということも、交流
や訪問活動の対象につながるので、今回の調査で終わるのでなく、
これをきっかけにそれぞれの小地域で実態を把握していけると良
いでしょう。

これら4つの活動を支えていくためのシステムをどうするかと
いう話が5番目に出てきます。圏域の話の問題提起していただい
たところも重要なところですよ。また、情報発信もとても大切です。
若い人でツイッターなどを使っている人は自ら検索するので、検
索したときに引かかるかどうかの方が大事で、すぐに伝わらな
くても、彼らは検索するので、検索したときに見てもらえるよう
になるよう考えていけたら良いでしょう。

ゴールをどう捉えるかについては、私としては長期的なゴール
は一人ひとりの幸せ。幸せに暮らすことができているかどうか。そ
れができていないとすれば、その原因は何か。なかなか達成でき
るものでなく、絶えず追い求めなくてはなりません。一方で、長
期的なことに向かって何をやるかというゴールは設定しやすいと
思います。そのためにこういうことに取り組んでいこう、やってみ
て参加者が少なかったらどうしようかということ。今までの計画
でも大事なものが入っているので、それぞれを単体で見るので
なく、連動させることはできないだろうかというところから地域
福祉計画・活動計画を推進していけたらと思います。

今回の委員の皆様のご意見を踏まえて、今後事務局は素案の作
成に入っていくと聞いています。事務局には負担をおかけしま
すが、よろしくお願ひします。

長くなりましたが、以上とします。ありがとうございました。

本日の議事は以上になりますので、事務局にお戻しします。
委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

議長

議事の内容・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。

令和 年 月 日

議長の署名 _____